

安全運転

ほっと NEWS
2016年4月号

今月のクイズ

20～24歳の若手ドライバーが、2014年中に起こした交通事故の原因のうち、最も多かった法令違反を、次の中から選んでください。

- ① 運転操作不適（正しい運転操作をしていなかった）
 - ② 安全不確認（周囲の安全確認を怠った）
 - ③ わき見運転（カーナビ等、運転以外の方向に目が向いていた）
- （答えは裏面）



TOKIO MARINE
NICHIDO

新入社員に安全運転を指導するには

フレッシュな新入社員が入社する時期になりました。業務で社有車を使用する企業では、「新入社員にすぐに社有車を運転させて大丈夫かな？」と心配していませんか？新入社員は学生時代にほとんど運転しておらず運転に不慣れな場合が多く、ベテランドライバーよりも事故を起こす可能性があります。また、運転マナーが悪いと社会的な企業イメージを損ねかねません。

今月は、新入社員への安全運転の指導の仕方を考えてみましょう。

新入社員は運転に不慣れで、不安を抱えている

日本製薬工業協会によると、平成22年度に医薬品会社にMR（医薬品の営業として医療機関を訪問する担当者）として入った新入社員が配属後1年間に起こした有責事故（ドライバー側に少しでも過失責任がある事故）の発生率は5割を超え、同年度の全MRの発生率（約2割）に比べ高くなっています。

また、入社前の運転状況の調査によると「ほとんど運転しない」が33%、「月1回運転」が31%で、約6割が運転の経験が浅いま入社していました（図1）。新入社員は運転に不慣れで、不安を抱えていると考えられます。

運転経験の浅い新入社員は、医薬品会社に限りません。新入社員への安全運転の指導が重要です。

運転経験が浅い
約6割

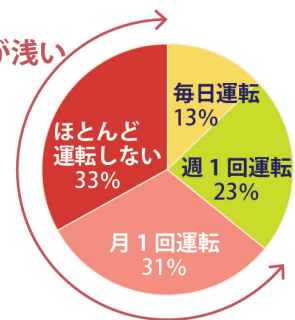


図1：新入社員 MR の入社前の運転状況

（出典：日本製薬工業協会「環境報告書2013 労働安全衛生活動」より弊社作成）

安全確認や危険予測の大切さを教えましょう

20～24歳の若手ドライバーが起こした交通事故の原因を法令違反別にみると、周囲の安全確認を怠った「安全不確認」と、カーナビや携帯電話等を見て危険に気づかない「わき見運転」が最も多くなっています（図2）。次いで、相手の動きをよく見ていなかった「動静不注視」、考え事やぼんやりして運転する「漫然運転」等が続き、若手ドライバーの約8割が、安全運転の義務に違反して事故を起こしています。運転経験が浅い若手ドライバーは、交通場面での「危険を知らない」ため「安全確認の対象や方法が解らない」状態にあると考えられます。また、安全確認の対象や方法を理解していたとしても、その通りに運転できるとは限りません。

新入社員には「危険を知り、安全確認の対象や方法を覚える」「その通りに正しく実践する」ことを指導しなくてはなりません。

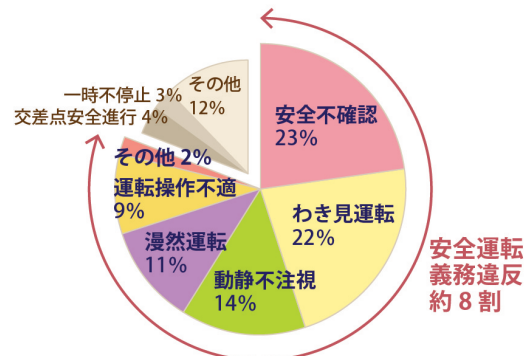


図2：20～24歳のドライバーの法令違反別交通事故発生状況（平成26年中）

（出典：警察庁「平成26年中の交通事故の発生状況」より弊社作成）